季刊
1月・2月・3月

博物館だより

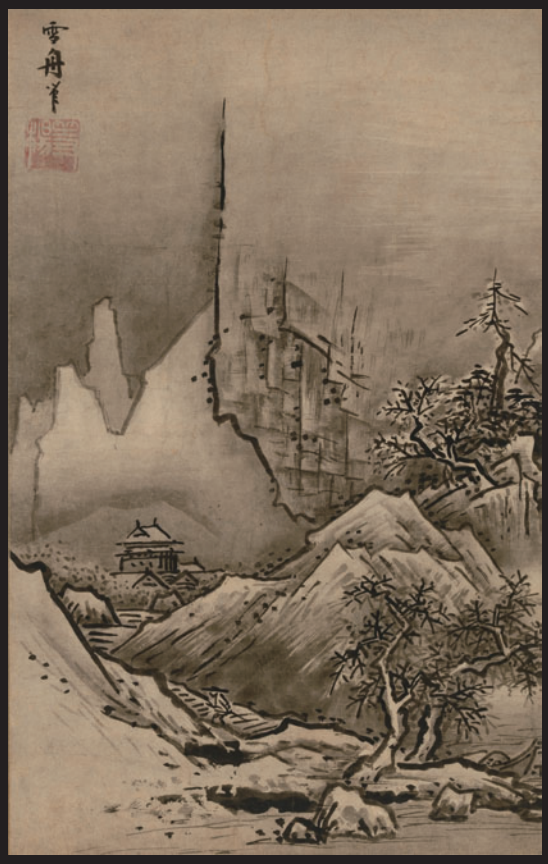
FUKUSHIMA MUSEUM QUARTERLY

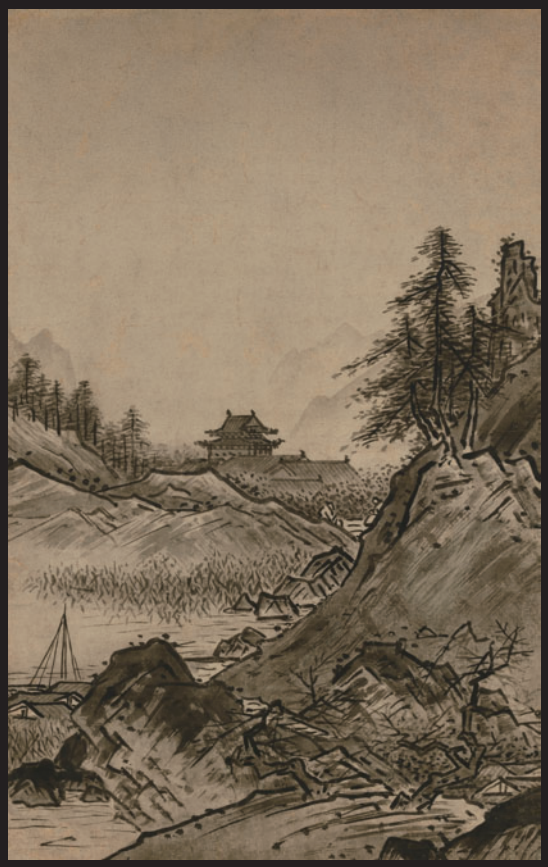
ＵＲＬ http://www.general-museum.fks.ed.jp

127

福島県立博物館

山水憧憬





雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ

冬の企画展

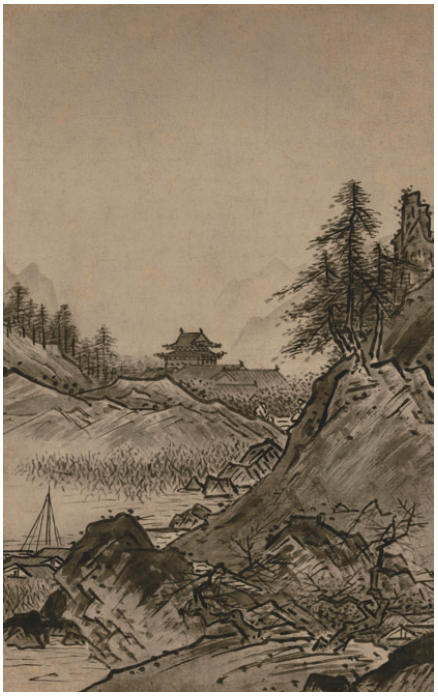
平成 30 年 1 月 13 日(土)～ 2 月 18 日(日)

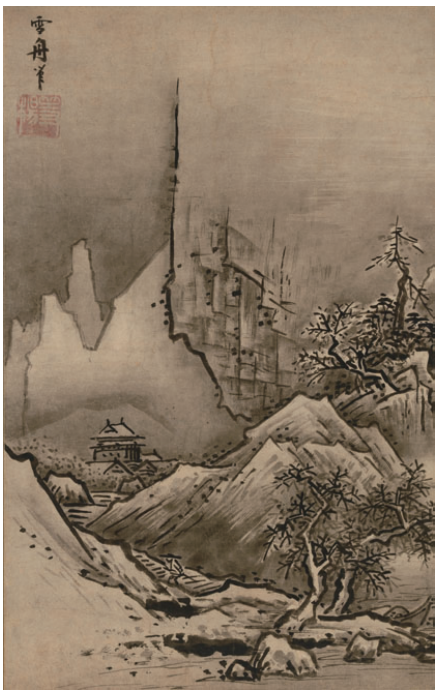
平成29年度冬の企画展

山水憧憬

―雪舟・蕪村・応挙　水墨の山野に遊ぶ

平成30年
1月13日(土)～2月18日(日)





国宝　雪舟等楊「秋冬山水図」

遠くそびえる山並、清らかな滝や川、湖。山懐に抱かれたような楼閣や庵。

日本美術の主要な画題の一つである「山水」は、長く、日本人の自然への憧憬、畏怖を形にしてきました。

本展では、東京国立博物館の特別協力により同館が所蔵する「山水」をテーマとする水墨画の名品10件、工芸品8件をご紹介します。

我が国水墨画の大成者とされる雪舟等楊の「秋冬山水図」(国宝)をはじめ、江戸時代の与謝蕪村、円山応挙らの作品を通して水墨画の多様な表現と画家の個性に触れることができるでしょう。

また、平安時代から江戸時代にわたる工芸品の数々は、人々の思いを受け止めて表現してきた日本の工芸の技と美の素晴らしさを伝えてくれます。

水墨画のようにうつくしい冬の会津で、日本が誇る山水の名品をご覧ください。

講演会

「国宝とは何か―文化財保護・博物館・美術工芸品」

日時：1月13日（土）　13時30分～15時00分
場所：福島県立博物館企画展示室
講師：東京大学教授　佐藤康宏氏
※要企画展チケット

会　　場	福島県立博物館企画展示室
観覧時間	9時30分～17時（入館は16時30分まで）
観 覧 料	一般・大学生500円（20名以上の団体は400円）、高校生以下無料
休 館 日	毎月曜日（2月12日は開館）、2月13日（火）
主　　催	福島県立博物館
特別協力	東京国立博物館

重要文化財　与謝蕪村「山野行楽図屏風」（右隻）

狩野山雪「林和靖・山水図」

染付山水図大鉢　伊万里

楼閣山水蒔絵宝石箱

円山応挙「雪中老松図」

全て東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives

※雪舟等楊「秋冬山水図」冬景は前期（1月13日～1月28日）、秋景は後期（1月30日～2月18日）の展示です。

関連展示「テーマ展　けんぱくの宝 2017」

会　　期　平成29年12月23日（土）～平成30年2月18日（日）
会　　場　福島県立博物館部門展示室「歴史・美術」
観覧時間　9時30分～17時（入館は16時30分まで）
観 覧 料　一般・大学生270円（20名以上の団体は210円）、高校生以下無料
休 館 日　12月28日（木）～1月4日（木）、毎月曜日（2月12日は開館）、2月13日（火）

「山水憧憬」展の開催にあわせ、福島県立博物館収蔵の名品をご紹介する恒例のテーマ展「けんぱくの宝 2017」では、当館所蔵の山水画題の美術工芸品を展示します。あわせてご覧ください。

展覧会レポート

秋の企画展

発掘ふくしま4

―驚き連発、考古学の旅―

会期 平成29年10月7日（土）～11月26日（日）

今年度の秋の企画展「発掘ふくしま4」は、観光シーズンでもある10月7日（土）に開幕しました。

「発掘ふくしま」シリーズは、県内各地で行われた発掘調査の成果をいち早く県民の皆さんにお知らせする企画展です。第一回目は一九九三年に行い、その後5年ごとに二度開催しましたが、東日本大震災の影響もあって、今回は14年ぶりの開催となりました。そのため過去10年の成果を盛り込んだ情報量の多い内容となりました。

旧石器時代から昭和期までたくさんの遺物が並びましたが、いずれの展示物も地中に埋まってしまって以降、誰も目にしたことのないものですから、来館者の方々は、皆さん驚き連発！といった様子でした。

最も古いものは今から2万5千年ほど前の旧石器時代人が用いた槍先に使った石器です。

企画展「発掘ふくしま4」のチラシ

1

縄文時代の展示は、約4千2百年前の「複式炉文化」を紹介しました。ふくしまが日本列島文化の中心だったともいえる驚きの資料です。

また、新地町三貫地貝塚から出土した縄文人の遺伝子ゲノムが世界で初めて解析されたというホカホカのニュースも取り上げました。

湯川村の桜町遺跡と喜多方市家西遺跡では周溝墓というお墓がたくさん見つかり、弥生時代と古墳時代の境目の土器が出土しました。「これは弥生土器？それとも土師器？何と呼んだらいいの？」という声が多く聞かれました。

古墳時代コーナーでは、全国的にも謎とされる5世紀の古墳を紹介しました。中島村の四穂田古墳から出土した鉄のよろい（短甲）は、ふくしまの5世紀を考える上でとても重要な資料です。

2

奈良・平安時代では、古代の「磐城郡」を例に、郡の役所とお寺が中心となる地方行政機構のようすを、遺跡のあり方から紹介しました。

また、中世の白川城、近世の二本松城や若松城などお城の調査も進み、出てきた瓦やお茶碗などが展示されました。

初日には福島県考古学会会長の玉川一郎さんの講演があり、福島県内では大規模な発掘調査の時代が終わり、重要な遺跡を保存、活用するための整備を目的とする発掘調査の時代に入ったというお話がありました。

11月3日には、福島大学考古学研究室の菊地芳朗教授の講演があり、県内の古墳時代研究の最新情報をお話いただきました。

11月18日には中央大学考古学研究室の小林謙一教授による楢葉町井出上ノ原遺跡発掘調査の成果を紹介する解説会が行われ、精緻な科学的調査によって、当時の人々の生活の様子が細かい部分まで分かってくることを楽しくお話しいただきました。

3

11月23日には、国立遺伝学研究所の斎藤成也教授の講演があり、三貫地貝塚人と私たちの関係や世界の民族がどのように広まったのか、日本列島にはどんな人がどこからやってきたのか、という疑問に遺伝子の研究から迫っていただきました。

4

会期中の来場者数は三、七三四人で、昨年秋の企画展「収蔵庫からこんにちは」より二百人ほど少ない結果でした。情報量の多さもあってか、アンケートには、「専門的すぎる」「文字が多い」「キャプションが小さい」というお叱りの声があった一方で、「知らないことの多さに驚いた」「ふくしまが日本の中心だったなんて！」「会津大塚山古墳の遺物に感動した」「軍隊が使っていた歯ブラシが面白かった」などの声も寄せられました。

発掘調査で地中から掘り出される資料は分からないものだらけです。これからも、私たちはそれらを研究して、なるべく分かりやすく皆さんにご紹介したいと思います。

写真1　福島市和台遺跡から出土した狩猟文土器と人体文土器（縄文時代）
写真2　喜多方市家西遺跡から出土した古墳時代前期の土器
写真3　中島村四穂田古墳から出土した短甲とヤリガンナなど
写真4　小林謙一中央大学教授のゲスト展示解説会

イベントレポート　歴史講座　史料でよむ戊辰戦争

来年は戊辰戦争から 150 年の節目の年です。そこで、歴史講座は、史料で読む戊辰戦争と題し、残された様々な史料から戊辰戦争を考える講座を実施しています。

すでに、第３回まで終了しています。

第１回　会津藩雪辱の書―渋谷源蔵「雪冤一弁」をよむ　９月 16 日（土）終了。
担当　当館学芸員　阿部綾子

第２回　戦場・会津の７日間―「酒井安右衛門覚書」をよむ　10 月 21 日（土）終了。
担当　当館学芸員　高橋充

第３回　民政局とは何か？―簗田家文書「公用簿籍」をよむ　11 月 18 日（土）終了。
担当　当館学芸員　田中伸一

残りの２回分の予告をお伝えします。（場所はいずれも当館講堂、入場無料・申込不要）

第４回　県庁文書にみる戦後の会津―若松県「日誌」をよむ
12 月 16 日（土）13:30 ～ 15:00
担当　当館学芸員　栗原祐斗
戊辰戦争後の会津地方は民政局の統治を経て若松県の管轄となりました。戦後の混乱に対応した若松県の日誌を読みながら、当時の会津地方の様子を紹介します。

第５回　新島八重の回顧談―「男装して会津城に入りたる当時の苦心」をよむ
平成 30 年１月 20 日（土）13:30 ～ 15:00
担当　当館学芸員　佐藤洋一
人気のあった女性向け雑誌『婦人世界』（明治 42 年）に掲載された新島八重の籠城戦の思い出話を紹介します。

男装の新島八重

ポイント展「火をつかう昔の道具」と体験学習について　トピックス

小学校３年生の社会科の単元「古い道具と昔のくらし」において、古い道具を体験したり、古い道具は暮らしの中でどのように使われているのか調べたりする学習があります。そのため毎年冬季に入ると、周辺の小学校３年生の皆さんが、博物館の体験学習メニュー「昔の道具体験」を実施にお出でになります。

例年博物館では、児童の皆さんの活動に合わせて、昔の暮らしについてのポイント展を開催しています。今年度は「火をつかう道具」をテーマに、電気やガスが普及していなかった時代の道具を展示します。例えば、暖をとるための行火（あんか）を入れて使ったこたつや、明かりとして使った行灯（あんどん）やがんどう。更に料理をするための七輪（しちりん）やアイロンがけをするための炭火アイロンなどです。小学生にとっては曾祖父や曾祖母が使っていた道具たちです。現代の道具の性能には遠く及ばないものの、工夫を施してあるものばかりです。児童の皆さんが、昔の道具の体験（石臼体験など）や実物に触れながら、道具の観察を通して使い方や工夫されている点に気づき、その当時のくらしの様子について考えていくことを目的としています。

なお、実際にかまどでご飯を炊いた経験などをお持ちの方に、子どもたちの学びを手伝って頂きたいと考えています。ぜひ、ご一報ください。

研究ノート

次年度企画展「匠のふるさと会津」展調査から

越後大工の活躍と会津

民俗分野学芸員　内山　大介

福島県会津地方は古くから越後国（現在の新潟県）との深い文化的な交流がありました。今回はなかでも職人の出稼ぎについて考えてみたいと思います。会津地方にある古い民家やお寺、神社などについて、「新潟の大工が建てた」という話はよく聞きますし、棟札などから実際に越後の大工が建てたことが分かる建物も多く残されています。有名なところでは、国指定重要有形民俗文化財である桧枝岐村と南会津町大桃の歌舞伎舞台は越後から旧伊南村に住み着いた阿部松太郎という人が大工だったと言われ、大桃の舞台に残された明治27年の棟札には新潟県西蒲原郡の大工・星野藤造の名がみえます。また南会津町の県指定重要文化財・旧山内家住宅には、越後国間瀬の田中善七という大工が携わったことを示す墨書があります。

大正～昭和初頭の新潟県間瀬村全景　絵葉書（個人蔵）より

桧枝岐の舞台は越後から旧伊南村に住み着いた阿部松太郎という人が大工だったと言われ、大桃の舞台に残された明治27年の棟札には新潟県西蒲原郡の大工・星野藤造の名がみえます。また南会津町の県指定重要文化財・旧山内家住宅には、越後国間瀬の田中善七という大工が携わったことを示す墨書があります。

越後大工は真面目で働き者であり、腕が良いことで評判が高く、近世から近代以降に至るまで会津の各所で活躍しました。越後のうちでも出稼ぎの大工を輩出したのは、耕地が少なく農業で生計を立てるのが難しい海岸部の地域が中心でした。地名を冠する有名な大工がいくつかありますが、なかでも会津に多く来ていたのは間瀬大工でした。

現在の新潟市西蒲区間瀬は土地の9割が山林を占め、古くから漁業と出稼ぎを主要な生業とした村でした。間瀬村公民館発行の『間瀬郷土史』（昭和29年）によると、昭和初期までは、義務教育を終えた間瀬の子どもたちは漁師か大工かの道を選び、特に大工といえば会津に働きに行くと決まったようなものだったといいます。長岡市指定有形文化財の「慶応二年 渡部組御用留」には幕末の間瀬村の職人が「旅稼」をする際の願い上げ人別調べがあり、大工をはじめ木挽きや屋根葺きなど多くの職人が出稼ぎ先として会津の各所で働いていたことが分かります。

「慶応二年 渡部組御用留」（長岡市教育委員会蔵）

出稼ぎに来た越後大工は会津の職人と一緒に仕事をしたり、会津に定住した人も多くいたようです。例えば南会津町の重要伝統的建造物群保存地区・前沢曲屋集落は、明治40年に全戸を焼失した大火後に近隣及び新潟の13名の大工集団が再建し、統一された景観が生まれたといいます。また会津美里町の赤留不動堂は、越後国の燕や出雲崎などの大工や彫刻師と地元の大工が文化六年の建築に携わったことが棟札から分かります。さらに会津坂下町牛沢の大徳寺は嘉永年間に間瀬大工の善右衛門という棟梁が再建し、さらに盆踊りまで伝えたのが現在の牛沢甚句のはじまりであるという伝承もあります。会津に多く足跡を残す越後大工は、地域社会に溶け込みながら人々との交流を持ち、様々な文化も一緒に伝えていたのかも知れません。

会津美里町指定有形文化財・赤留不動堂の見事な彫刻

来年度には企画展「匠のふるさと会津」を開催予定で、越後大工を紹介するコーナーも計画しています。関連する情報や資料をお持ちでしたら、博物館までご連絡下さい。お待ちしております。

特集展 予告
はま・なか・あいづ 文化連携プロジェクト成果展

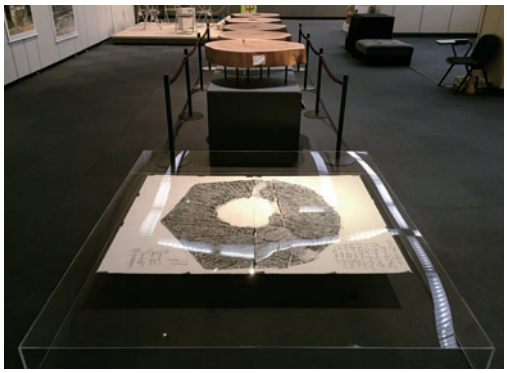
平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、福島県立博物館が福島県内の大学、文化施設、NPO等との連携により平成24年から実施しているアートプロジェクトです。

福島県の文化や自然の豊かさの再発見と、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故以降に福島がおかれた状況の文化的アプローチによる共有と発信を目的としています。

これまで、本プロジェクトで生まれた作品を通して、福島を伝え考える成果展を開催します。

震災・事故、そして復興・復旧作業が進む中で変容する福島の課題に、真摯に対峙したアーティストの活動から生まれた作品は、多くのことを私たちに伝え、考えるヒントを与えてくれます。ぜひご覧ください。

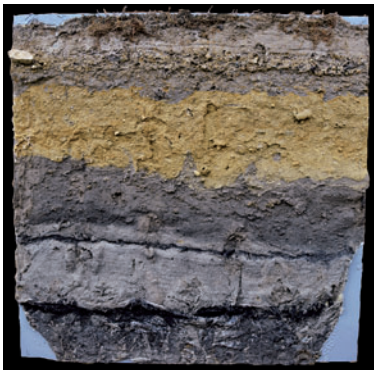


会場　企画展示室　　観覧料　無料

特集展 予告
震災遺産を考える
―災害の歴史と東日本大震災―

平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

当館を中心とする「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」では平成28年度までの3年間、東日本大震災の経験を共有・継承するための取り組みを進めてきました。その活動で保全してきた「震災遺産」と過去に起こった災害に関する資料を合わせてご覧いただき、改めて震災を地域の歴史としてとらえ直してみたいと思います。



津波堆積物断面剥ぎ取り標本
(南相馬市小高区)

いわき市久之浜の火災の痕跡を伝える街灯

津波の被害を受けたいわき市久之浜(平成24年9月)

会場　企画展示室　　観覧料　無料

企画展
企画展示室　一般・大学生500円、高校生以下無料

山水憧憬
—雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ—
1月13日(土)～2月18日(日)

■講演会(申込不要、**要企画展チケット**、企画展示室)
「国宝とは何か
—文化財保護・博物館・美術工芸品」
1月13日(土)　13時30分～15時
講師 東京大学教授 佐藤康宏氏

特集展
企画展示室　無料

震災遺産を考える
3月3日(土)～4月11日(水)

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展
3月3日(土)～4月11日(水)

テーマ展
部門展示室　常設展料金

けんぱくの宝2017
～2月18日(日)

ふるさとの考古資料7
【楢葉町歴史資料館】移動展
～5月20日(日)

ポイント展
総合・部門展示室　常設展料金

火をつかう昔の道具
～2月28日(水)

鉱山の鉱物
1月27日(土)～3月4日(日)

安産・成長へのねがい
3月1日(木)～3月28日(水)

講座・実演他
★は要申込

【館長講座】(申込不要、無料、講堂)
「北のはやり歌⑩」
1月18日(木)　13時30分～14時45分
講師 館長 赤坂憲雄

「東日本大震災を考える」
①2月15日(木)　②3月15日(木)
各13時30分～15時(予定)
講師 館長 赤坂憲雄

【民俗学講座】(申込不要、無料、講堂)
「おもしろ民俗学ゼミナール④
大正月と小正月はどうちがうの？
—暦と行事の民俗入門」
1月13日(土)　13時30分～14時30分
講師 学芸員 江川トヨ子

【歴史講座】(申込不要、無料、講堂)
「史料で読む戊辰戦争⑤」
1月20日(土)　13時30分～15時
講師 学芸員 佐藤洋一

【考古学講座】
「縄文と弥生」(申込不要、無料、講堂)
3月10日(土)　13時30分～15時
講師 学芸員 田中敏・森幸彦

★「勾玉・ガラス玉を作ろう」
(**要申込**、20名、**300円**、実習室)
3月24日(土)　10時～15時
講師 学芸員 高橋満　ほか

ミュージアムイベント

「会津の彼岸獅子」
3月11日(日)　13時30分～15時
(申込不要、無料、エントランスホール)

「会津室内楽団 アンサンブル Coderanni コンサート」
3月25日(日)　13時30分～15時30分
(申込不要、無料、講堂)

＊要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。
＊その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

1月～3月の休館日
1月9日(火)・15日(月)・22日(月)・29日(月)
2月5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)
3月5日(月)・12日(月)・19日(月)・22日(木)・26日(月)

年末年始の休館日　12月28日(木)～1月4日(木)

【お問い合わせ先】福島県立博物館
〒965-0807 会津若松市城東町1-25
Tel 0242-28-6000　Fax 0242-28-5986
HP http://www.general-museum.fks.ed.jp/
Mail general-museum@fcs.ed.jp

季刊博物館だより　127号　2017年12月8日発行　編集・発行　福島県立博物館　〒965-0807会津若松市城東町1-25　TEL0242-28-6000　印刷　北斗印刷株式会社　会津若松市町北町大字始字深町67-2　TEL0242-32-2366